鳥取県経済同友会東部地区２月例会報告

１　日　時　令和８年２月２０日（金）１８：３０～
２　場　所　ホテルニューオータニ鳥取「鳳凰の間」
３　講　演　「現在の学校教育の課題と鳥取県立まなびの森学園の果たす役割」
　　鳥取県立まなびの森学園
　　校長　山口　京子　氏
４　出席者　会員２０名
５　講演概要

２月例会は未来の人材育成委員会が、担当です。鳥取県立まなびの森学園校長の山口京子氏に「現在の学校教育の課題と鳥取県立まなびの森学園の果たす役割」と題して講演していただくに当たり、同委員会の田淵裕章委員長が、講演に至った経過、山口京子氏のプロフィール等を紹介し講演に入りました。

【講演する山口京子氏】

講演のポイントは次のとおりです。

現在の学校教育の課題として、中学校の不登校が年々増加しており、生徒１００人当たりの不登校は、令和６年度全国平均 6.79 人に対し、鳥取県は 7.72 人と多い。不登校の背景と思われる主な相談は、友人関係、学業不振、生活リズムの乱れ、学校生活にやる気が出ない、不安・抑うつなどである。

課題はいろいろあるが、３点に絞れば、①取り残されている生徒がいること（不登校、学習への困難さ、家庭事情など背景は多様）、②教育的負荷をどのようにかけるか（多様性の尊重と成長のためのバランス）、③予測できない社会に生き抜く力を育むこと（学校だけではできない変化への対応）である。

夜間中学は、昼間の中学校と同じ中学校、週５日間の授業があり、すべての過程を終了すれば中学校卒業となる。現在、全国に夜間中学が６２校あり、来年以降も増える見込みである。

学びの森学園の目指す学校の姿は、いろとりどり[色鳥取]に、ともに自分らしく学ぶ。実現を目指す３つのよろこびとして、①「学ぶ」よろこびの実現（仲間[生徒]の個性を尊重し、誰もが安心してのびやかに学ぶ。）、②「つながる」よろこびの実現（仲間[生徒]や学校外の様々な人の思いや考えにふれ、力を合わせてものごとに取組む。）、③「社会の中で生きる」よろこびの実現（社会[ふるさと（鳥取をはじめ多様な地域）の人、もの、仕事]とつながり、その一員として大切な自分の存在を認識し、主体的に行動できる力を高める。

現在の生徒数は１３名で、卒業第１号となった学生は、入学してきたときと人が変わっ

たように良くなった。目の輝きが出てきた。

まな森を一緒に盛り上げてくれる仲間を募集中で、その名は「まな森るんるん隊」、生徒たちの学習活動や、学校の魅力を地域に届ける広報活動を無償でサポートをしていただける個人、企業、団体の皆さまを募集しているので、協力をお願いしたい。

最後に、井上法雄副代表幹事の謝辞で終了した。